

令和5年度 東部・北部・気仙沼管内
小・中学校主幹教諭(養護)の取組について

「緊急時に適切な対応をするために」
～救命アクションカードを活用した組織的に動く危機管理体制づくり～

1 概要

平成30年度に、養護教諭の専門性を高めることを目的として東部教育事務所管内小・中学校の養護教諭を対象に実態調査を実施した。その結果、救急処置に関する悩みが多くあげられた。また、これまでの事例から「養護教諭不在時の救急対応が不十分」「緊急時、誰がどのように動くのか」といった不安もあがり、各校で緊急時対応のマニュアルは整備されていても、実際の場面で生かすためには、職員研修の積み重ねが必要であることが分かった。

そこで、令和元年度に学校で児童生徒や教職員等の生命にかかわる緊急事案が発生した場合に、現場にいる教職員が適切・迅速に対応できるよう取るべき行動を示した「救命アクションカード」を消防署や関係機関から助言を受け作成した。令和2年度からは「救命アクションカード」を活用した研修モデル案を作成し、主幹教諭(養護)が中心となり、各校で職員研修を実施するとともに、県及び管内の各研修会等で講師を務め取組の周知・普及を行ってきた。

今後も、各校での「救命アクションカード」を活用した対応訓練を、学校の実情にあわせ実践的・効果的な内容に自校化したり、児童生徒に向けた授業での活用を図ったりするなど、さらなる普及に取り組んでいきたい。また、主幹教諭(養護)の配置が東部・北部・気仙沼管内と広がっていることを踏まえ、県内及び県外に「救命アクションカード」の活用を浸透させていくことで、各校における組織的に動く危機管理体制づくりに寄与していきたい。

2 経過

年度	取組及び人員	主な内容
平成30年度	養護教諭の職務についての課題調査 主幹教諭(養護)3名 (東部教育事務所管内3名)	◆主幹教諭(養護)会議(年4回) ①養護教諭が抱える課題について ②アンケートの作成、実施 ③集計及び考察 ⇒次年度に向けて 危機管理体制の整備「アクションカード」
令和元年度	アクションカードの作成 主幹教諭(養護)4名 (東部教育事務所管内4名)	◆主幹教諭(養護)会議(年4回) ①カードの意義や救急対応の課題について検討 ②原案を持ち寄り、カードの試作 ③消防署からの助言を受けカードを再検討 ④アクションカードの完成、職員研修の実施計画案の作成 ◆主幹教諭(養護)研修会 「学校現場で起こりやすい事故や けがの応急手当法について」 講師 石巻消防署西分署 消防司令補 庄子 実 氏

		<p>消防士 横田 賢也 氏 →名称を「救命アクションカード」と決定</p>
令和2年度	<p>救命アクションカードを用いた職員研修のモデル案作成</p> <p>主幹教諭(養護)7名 (東部教育事務所管内6名) (北部教育事務所管内1名)</p>	<p>◆主幹教諭(養護)会議(年2回)</p> <p>①職員研修のモデル案を作成</p> <p>②「救命アクションカード」を用いた職員研修を先行実施、参観及び事後検討</p> <p>◇ 5/27 二俣小学校</p> <p>◇ 8/18 鳴瀬未来中学校</p> <p>◇ 11/12 矢本第二中学校</p> <p>③東部教育事務所管内へ周知</p> <p>救命アクションカード及び訓練モデル等を東部教育事務所指導班だより及び東部教育事務所ホームページに掲載</p> <p>◆主幹教諭(養護)研修会 「感染症対策について」 講師 石巻・登米保健所 所長 鈴木 陽 氏</p>
令和3年度	<p>救命アクションカードを活用した職員研修・訓練モデル案の更新及び各研修会での周知</p> <p>主幹教諭(養護)8名 (東部教育事務所管内7名) (北部教育事務所管内1名)</p>	<p>◆主幹教諭(養護)会議(年3回)</p> <p>①「救命アクションカード」を活用した緊急時の対応訓練や説明用資料の検討</p> <p>②「救命アクションカード」を活用した職員研修の実施及び検討(別添資料)</p> <p>③緊急時の対応訓練モデル案の作成及び更新(図上訓練等)</p> <p>◆主幹教諭(養護)研修会 「がん教育・学校と病院」 講師 石巻赤十字病院 副院長 鈴木 聡 氏</p> <p>◆県学校安全教育指導者研修会(2021.5.28)</p> <p>◆石巻市防災主任研修会(2021.9.15)</p> <p>◆石巻地区学校保健会研修会(2022.1.15)</p>

<p>令和4年度</p>	<p>緊急時対応訓練モデルの充実・発展に向けてアップデートポイントのまとめ及び児童生徒の授業や児童会活動での実践</p> <p>主幹教諭(養護)10名 (東部教育事務所管内7名) (北部教育事務所管内2名) (気仙沼教育事務所管内1名)</p>	<p>◆第74回宮城県学校保健・安全研究大会 (動画配信 2022.11.24~12.1)</p> <p>◆登米市教育研究会 保健教育部一斉研修会 (2022.10.7)</p> <p>◆東松島市学校保健会保健主事研修会(2022.12.1)</p> <p>実践事例</p> <p>◆小学校5・6年学級活動「安全安心な学校生活」</p> <p>◆中学校2年保健体育「傷害の防止」</p> <p>◆小学校児童会活動</p> <p>※緊急時の対応訓練モデルを自校化したポイント及び実践事例は別紙資料を参照</p>
<p>令和5年度</p>	<p>救命アクションカードを活用した職員研修の検討と各研修会での周知・普及</p> <p>主幹教諭(養護)10名 (東部教育事務所管内6名) (北部教育事務所管内3名) (気仙沼教育事務所管内1名)</p>	<p>◆主幹教諭(養護)会議(年3回) 2つのグループに分かれて研修・研鑽</p> <p>※救命アクションカードを活用した職員研修については、「宮城県学校事故防止事例集」作成メンバーとして取り組む</p> <p>◆主幹教諭(養護)研修会 「児童虐待に係る学校と関係機関の連携について」 講師:東部児童相談所 家庭支援第一班 次長(班長) 大谷 信 氏</p> <p>◆東松島市学校保健会総会(2023.5.2)</p> <p>◆気仙沼市防災主任者研修会(2023.6.26)</p> <p>◆登米市教育研究会 保健教育部一斉研修会 (2023.10.6)</p> <p>◆北部教育研究会保健教育部会栗原ブロック研修会 (2023.11.2)</p> <p>◆学校安全実践力向上サポート事業 大阪府立学校養護教諭研修会(2023.11.29)</p> <p>◆安全担当主幹教諭研修会(2023.12.7)</p>

※ 「救命アクションカード」の挿絵 出展元 少年写真新聞社

緊急時の適切な対応のために ～救命アクションカードと対応訓練の作成について～

東部・北部教育事務所管内小中学校 主幹教諭(養護)

1 はじめに

平成30年度養護教諭の専門性を高めることを目的として東部教育事務所管内小・中学校の養護教諭を対象に実態調査を実施した。その結果、救急処置に関する悩みが多くあげられた。また、これまでの事例から「養護教諭不在時の救急対応が不十分」「緊急時、誰がどのように動くのか」といった不安もあがり、各校で緊急時対応のマニュアルは整備されていても、実際の場面で生かすためには、職員研修の積み重ねが必要であることがわかった。

そこで、学校で生命にかかわる緊急事案が発生した場合に、現場にいる教職員が適切に対応できるよう取るべき行動を示した「救命アクションカード」と更にそれを活用した対応訓練の研修モデル案を作成した。

2 救命アクションカード及び対応訓練モデル案作成の経緯

「一目で行動内容が分かるように」「119番通報や家庭への電話連絡の要領」など、生命にかかわる緊急事案発生時に誰でも、救命処置や対応を確認しながらスムーズに行えることを念頭に置き、関係機関などの助言を受けながら令和元年度に「救命アクションカード」を作成した。

令和2年度には「救命アクションカード」を活用した研修モデル案を作成し、3校において先行実施した。研修を受けた教職員からは「瞬時にどのように対応すべきなのか、頭では分かっているが実際には思うように対応ができないことを体感した。」「心肺蘇生法と同じように毎年続けていくことでスムーズに対応できるようになると思った。」などの感想が集まった。また、「実際には職員室に職員が多くいるとは限らない。その時のマンパワーをどう確保するか。」「など活用していくための新たな課題もあげられるなど、教職員の危機管理の意識が高まり、研修の必要性が確認された。

3 救命アクションカードについて

全部で3種類ある。名刺サイズで全職員が所持できるようにした「第一発見者カード」と緊急事案発生を知らせる「『緊急です』カード」、役割ごとに作成した「現場対応カード」の構成になっている。すべてのカードの表面には「救命行動」、裏面には「具体的な行動内容」を示してある。

特に「『緊急です』カード」はすべての教室に掲示しておき、教職員が一人であっても児童生徒が職員室に届けるだけで緊急事案が発生したことを知らせられるように考えた。また、「第一発見者カード」は全職員が常に所持し、誰でも第一発見者としての行動が取れるようにしてある。「現場対応カード」は緊急時に取るべき行動が確認できるようにし、リーダーになった職員が順次、教職員へカードを手渡すことで役割ごと、もれのない行動ができるようにした。

4 職員研修(対応訓練案)について

「救命アクションカード」は救命行動を確実に実施させる有効な手立てになるが、教職員の立場であれば一連の流れを十分イメージできるレベルに理解しておくことが必要である。そのため、「救命アクションカード」を用いた職員研修を行うことで、必要な対応を理解し、管理職や養護教諭不在時でも、救命行動をもれなく迅速に行うことができると考える。

(1) 学校における事故対応の重要性(視聴、説明)

「体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKA モデル PR 映像」を視聴し、優先すべきことは何よりも被害児童生徒等の生命と健康であることを確認する。また、「学校事故対応に関する指針」から「職員一人一人に、状況に応じた的確な判断力や機敏な行動」や「管理職等が不在の場合でも組織的な対応が行える」といった資質が求められており、生命に関する緊急事案は、管理職への報告よりも救命処置を優先させ迅速に対応することが示されているこ

とを押さえる。

(2) 演習(実技訓練、図上訓練)

演習は、学校事故で多くみられる事例(心室細動、熱中症等)とし、より現実的な事例にすることで、教職員の危機意識を高める。

実技訓練は、グループを複数にし先生役(実践者)や児童生徒役(参観者)となって、事故発生から救急隊へ引き継ぐまでの一連の流れを、実際に動き、演習する方法である。実践→振り返り→実践という流れで演習を行い、それぞれのグループから気づいたことを出し合い、次の演習では改善するとともに、参観することで救命行動のイメージが膨らみやすいように工夫した。

図上訓練は、事故発生からリーダーが救命アクションカードで役割分担する直前までの具体的な動きを3つの場面に分けて考えるグループワークと事故発生から救急隊に引き継ぐまでの流れを校舍配置図上で、シミュレーションする方法の2種類を作成した。

実技訓練、図上訓練のどちらにおいても、実際に対応した事例や対応する教職員の人数を少数にするなど、想定場面を変えることで、臨機応変な対応をイメージできるのではないかと考えた。

5 結びに

当初、「救命アクションカード」があれば、緊急時に誰でも対応できると考えていた。しかし、研修を行ってみると、カードがあるだけでは対応できず、全体の動きが把握できなくなるなど課題が多くあげられ、「カードがあるだけ」では不十分であり、繰り返し演習を行うことの必要性を認識した。「救命アクションカード」を活用して実際に動いてみて、一連の流れをイメージできるようになることは教職員にとって必要なスキルである。また、これにより危機意識は高まり、日ごろから安全な生活を送ろうとする意識にもつながる。最終的には「救命アクションカード」は研修時に活用し、実際の緊急対応時には補助的に用いられることが望ましいと考える。

この「救命アクションカード」を活用した職員研修(対応訓練)が広まることで、いつでも迅速な対応ができることを願っている。

(参考文献)

・アクションカードを導入した救命救急～組織的に動ける危機管理体制づくり～

出雲市立灘分小学校 足立 早織 出雲市立第一中学校 清水 千景 出雲市立消防本部 吉井 友和
2014.4 P40～43, 2014.5 P38～41

・平成 25 年度救急救命の高度化の推進に関する調査研究事業「アクションカードを取り入れた新しい救命講習会を保育園・幼稚園を含めた学校・会社・大型店舗で行い救命の連鎖を強固にする方策」

出雲救命講習改善委員会

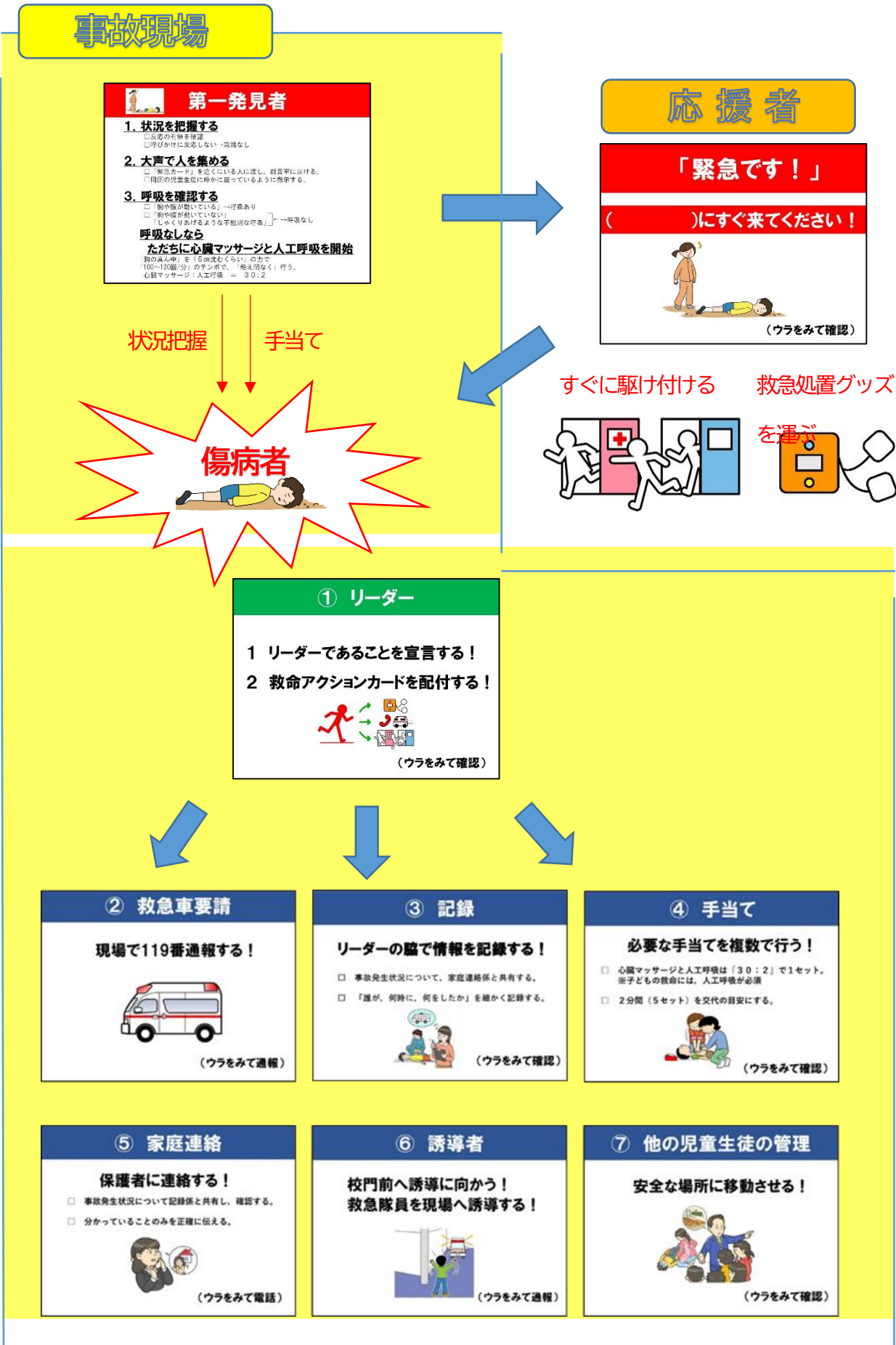
・全職員の危機管理意識の向上と緊急時の適切な対応を目指した体制づくり～食物依存性運動誘発アナフィラキシー発生時の対応の検証から～ 三重県四日市市立山手中学校 養護教諭 萩 美穂

・「体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKA モデル～」 さいたま市教育委員会

(協力・助言指導)


東部教育事務所 指導班

救命アクションカード活用フロー（イメージ図）



1 第一発見者

状況を把握し、大声で人を集め、救急処置を開始する



第一発見者

1. 状況を把握する

- 反応の有無を確認
- 呼びかけに反応しない→意識なし

2. 大声で人を集める

- 「緊急カード」を近くにいる人に渡し、職員室に届ける。
- 周囲の児童生徒に静かに座っているように指示する。

3. 呼吸を確認する

- 「胸や腹が動いている」→呼吸あり
- 「胸や腹が動いていない」
- 「しゃくりあげるような不規則な呼吸」

} →呼吸なし

呼吸なしなら

ただちに心臓マッサージと人工呼吸を開始

「胸の真ん中」を「5cm沈むくらい」の力で
「100～120回/分」のテンポで、「絶え間なく」行う。
心臓マッサージ：人工呼吸 = 30：2

※ 名刺サイズにし、各自のネームホルダーに入れておく。または、教室内の常に目にするところに掲示しておく。

★ポイント① 事故の状況把握と心肺蘇生法を行う。

- ・反応の有無を確認し、事故の状況を把握する。
- ・「普段通りの呼吸がない」「わからない」場合は、直ちに心肺蘇生法を行う。

★ポイント② 『緊急です！』カードで人を集める。

- ・()内は、その教室の名称を記入する。
- ・各クラス入り口の横に掲示しておく。特別教室も入り口横に掲示する。
- ・大声で人を集めるとともに、児童生徒に「緊急です！」カードを職員室や近くの職員に届けさせ応援を呼ぶ。



2 応援者

救急処置グッズを持って、現場にかけつける。

(オモテ面)

(ウラ面)



★ポイント① 受け取った職員が大声で他の職員に知らせる。

- ・持ち物も読み上げ、誰か持参するか確認する。
- ・他の職員も直ちに事故発生現場に駆け付ける。
- ・(職員室に不在の時は) 管理職、養護教諭にも直ちに知らせる。

★ポイント② 救急処置グッズを持って現場に向かう。

- ・携帯電話は各自で持つ。
- ・救急処置グッズはパッケージ化する。

救急処置グッズ (例)

- 人工呼吸用携帯マスク
- 救命アクションカード
- タオル
- 保温用シート
- ゴム手袋

※対応が可能なら

保温用 毛布 担架ペンライト など



3 事故発生現場

救命アクションカードを配付し、救命処置を行う。

★ポイント① 現場にいる人の中からリーダーを決める。

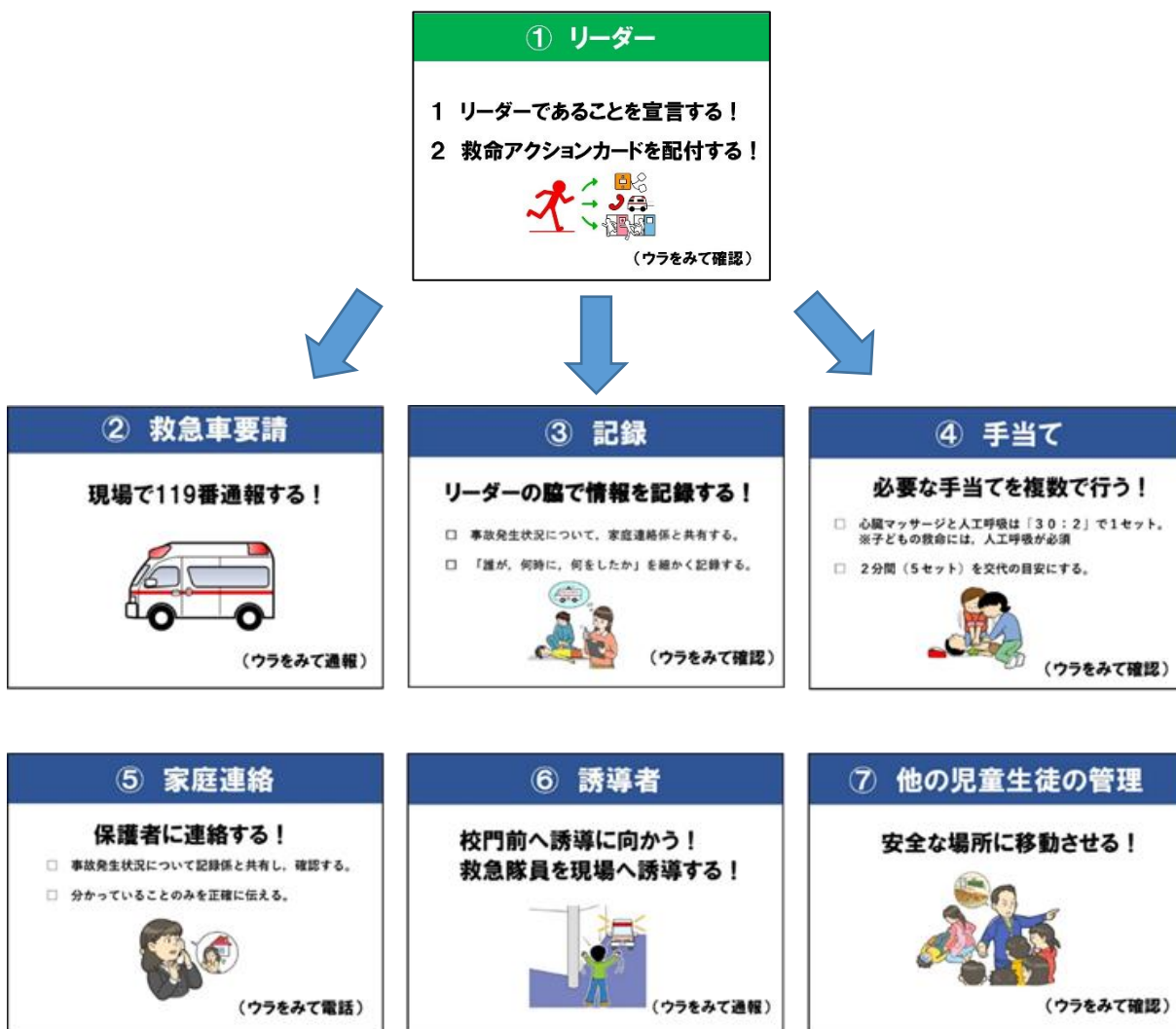
- ・管理職がない場合は、誰でもリーダーになりうる。
- ・リーダーを決めることで、現場の混乱を防ぐ。

★ポイント② リーダーは救命アクションカードを配付し対応する。

- ・職員はカードに沿って対応する。
- ・裏面の救命行動を確実にを行う。
- ・カードの番号は優先順位を示す。

★ポイント③ 職員は全体を意識し、自ら行動する。

- ・互いに声をかけあい、全体がどうなっているかを意識し、職員自ら行動を起こす。

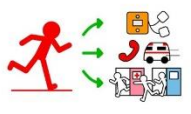


① リーダー（現場の責任者）

（オモテ面）

① リーダー

1 リーダーであることを宣言する！
2 救命アクションカードを配付する！



（ウラをみて確認）

（ウラ面）

① リーダー

- 第一発見者と手当てを交代できる人を指名する。
- 第一発見者から事故状況の報告を受ける。

1 状況を確認後、救命アクションカードを配付し、役割を指示する。

2 各進捗状況を大きな声で報告するように指示する。

- 全体の動きを確認し、各係からの報告を記録係に記録させる。

★ポイント 事故の状況を的確に把握し、救命アクションカードを活用し、役割を指示する。

- ・カードを番号順に渡す。対応人数によって1人に対し1枚～複数枚振り分けることもある。
- ・チェック表を基に、救命行動が確実に行われているか確認する。

① リーダー（チェック表）

<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">② 救急車要請</div> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">現場で119番通報する！</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center; margin-top: 5px;"> <input type="checkbox"/> （ウラをみて通報） </div>	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">③ 記録</div> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">リーダーの脳で情報を記録する！</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 事故発生状況について、家庭連絡係と共有する。 <input type="checkbox"/> 「誰が、何時に、何をしたか」を細かく記録する。 <div style="text-align: center; margin-top: 5px;"> <input type="checkbox"/> （ウラをみて確認） </div>	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">④ 手当て</div> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">必要な手当てを複数で行う！</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 心臓マッサージと人工呼吸は「30：2」で1セット。※子どもの救命には、人工呼吸が必須 <input type="checkbox"/> 2分間（5セット）を交代の目安にする。 <div style="text-align: center; margin-top: 5px;"> <input type="checkbox"/> （ウラをみて確認） </div>
<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">⑤ 家庭連絡</div> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">保護者に連絡する！</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 事故発生状況について記録係と共有し、確認する。 <input type="checkbox"/> 分かっていることのみを正確に伝える。 <div style="text-align: center; margin-top: 5px;"> <input type="checkbox"/> （ウラをみて電話） </div>	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">⑥ 誘導者</div> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">校門前へ誘導に向かう！ 救急隊員を現場へ誘導する！</p> <div style="text-align: center; margin-top: 5px;"> <input type="checkbox"/> （ウラをみて確認） </div>	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">⑦ 他の児童生徒の管理</div> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">安全な場所に移動させる！</p> <div style="text-align: center; margin-top: 5px;"> <input type="checkbox"/> （ウラをみて確認） </div>

② 救急車要請

(オモテ面)

② 救急車要請

現場で119番通報する！



(ウラをみて通報)

(ウラ面)

② 救急車要請

①火事ですか？救急ですか？
→救急です。

②場所はどこですか？
→（ ）学校（住所は ）です。

③救急車の必要な人の名前と年齢を教えてください。
→（学年，性別，名前）

④どうしましたか？
→（どこで，どうして，どうなった）

⑤どんな様子ですか？
→（意識，普段通りの呼吸，けいれんの有無）

⑥最後に，あなたの名前と電話番号をお願いします。
→（職名）（名前 ）電話番号は（ ）です。

⑦救急車が近づいたら，誘導をお願いします。

通報したら，リーダーに報告する（通報時刻も含む）

★ポイント 現場から通報する。

- ・携帯電話を利用し，傷病者の状態を確認できる現場で通報する。
- ・現在地や傷病者の状況などを伝える。その際，分からないことは「分からない」と伝える。
- ・電話は切らず，救急隊の指示を受け，リーダーに伝える。

③ 記録

(オモテ面)

③ 記録

リーダーの脳で情報を記録する！

事故発生状況について、家庭連絡係と共有する。

「誰が、何時に、何をしたか」を細かく記録する。



(ウラをみて確認)

(ウラ面)

③ 記録

被災生徒	年 組 名 前	年	月	日 生
発生時刻	月 日 ()	時	分	
発生場所	場所 ()	第一発見者 ()		
119番通報	時 分 (到着 時 分)			
応急処置	AED使用 ①	時	分	
	②	時	分	
家庭連絡	時 分	(母・父・祖父母・その他 () (学校着・病院着)		
搬送先	病院	同乗者 ()		
既往症	／かかりつけ医 ()			
その他生徒の対応				
(いつ・どこで・何をして・どうなった)				
救急隊に伝えたら、リーダーに報告する				

時刻	傷病者の状況や行った手当て

★ポイント 時刻とともに状況を記録する。

- ・リーダーのそばで事故発生状況を記録する。
 - ・その後の対応や状況についても時刻とともに記録する。(例：AEDを行った時刻)
 - ・傷病者が複数の場合、搬送先も複数になることがある。(誰が、どこの病院に向かったのか。)
- (時系列の記入例) てんかん発作

時刻	状態・対応等
13:45	呼びかけに反応なし。全身が硬くなり、ガクガクと震える。両目は瞬きせず、黒目は左側を向いたまま。救急車を要請。
13:50	口から泡を吹いた。顔を横向きにする。毛布にて保温。
13:57	救急車到着
14:01	救急車出発。同乗者は養護教諭。搬送先(日赤)を保護者に電話連絡。

④ 手当て

(オモテ面)

④ 手当て

必要な手当てを複数で行う！

- 心臓マッサージと人工呼吸は「30：2」で1セット。
※子どもの救命には、人工呼吸が必須
- 2分間（5セット）を交代の目安にする。



(ウラをみて確認)

(ウラ面)

④ 手当て

1. 出血の場合

- ① 傷口にタオルを当て、上から強く押さえる。
- ② 拍動性の出血であっても、落ち着いて時間をかけて圧迫する。

2. 頭部打撲の場合

- ① 頸椎損傷の可能性がある。動かさない。
- ② 呼吸・脈の確認、手足にしびれや麻痺、呼びかけても反応がない、けいれん、耳や鼻からの出血や透明な液（髄液）が出ている、瞳孔の左右差は速やかに119番

3. てんかん発作(けいれん発作)の場合

- ① 横にして、周囲の危険物を遠ざける。
- ② 発作時刻の確認と状態の確認。
- ③ 水中の場合は、体を支えて顔を水面から出す。無理に引き上げない。
- ④ 発作後に眠ってしまったら、寝かせておく。
- ⑤ 発作後、嘔吐の危険を考え、顔は横向きにする。（発作中口内には何も入れない）

行った手当てや状況は、逐次リーダーに時刻とともに報告する

★ポイント 第一発見者とともに手当てを行う。

- ・可能なら、手当ては複数人で行う。
- ・状態に変化があるときはリーダーに伝える。


⑤ 家庭連絡

(オモテ面)

⑤ 家庭連絡

保護者に連絡する！

- 事故発生状況について記録係と共有し、確認する。
- 分かっていることのみを正確に伝える。



(ウラをみて電話)

(ウラ面)

⑤ 家庭連絡

第一報

「() 学校の () です。」		
「() 年 () さんの () ですか？」		
★状況を正確に伝える。 ★分かっていることのみを伝える。	いつ	
	どこで	
	何をして	
	(誰と)	
	どうなった	
	現在の対応	救急車で病院に搬送します。
アレルギーや既往症はありますか？		
(学校にすぐに来られる場合)		「落ち着いて焦らずに学校までいらしてください。」
(すぐには来られない場合)		「搬送する病院が決定次第、再度ご連絡します。保険証と子ども医療受給者証の準備をお願いします。」

第二報

「() 病院に搬送します。「保険証」と「子ども医療費受給者証」「診察券」があれば、病院に持参してください。何時くらいに到着できそうですか？」	
「学校からは() が付き添います。では、落ち着いて病院までいらしてください。」	

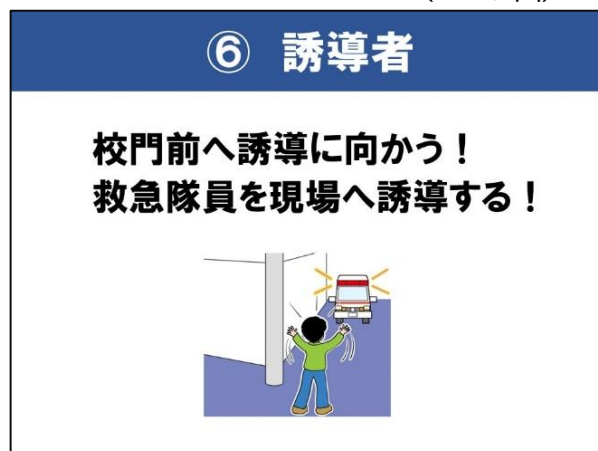
連絡したこと、連絡時刻を、リーダーに報告する

★ポイント 正確な情報を冷静に伝える。

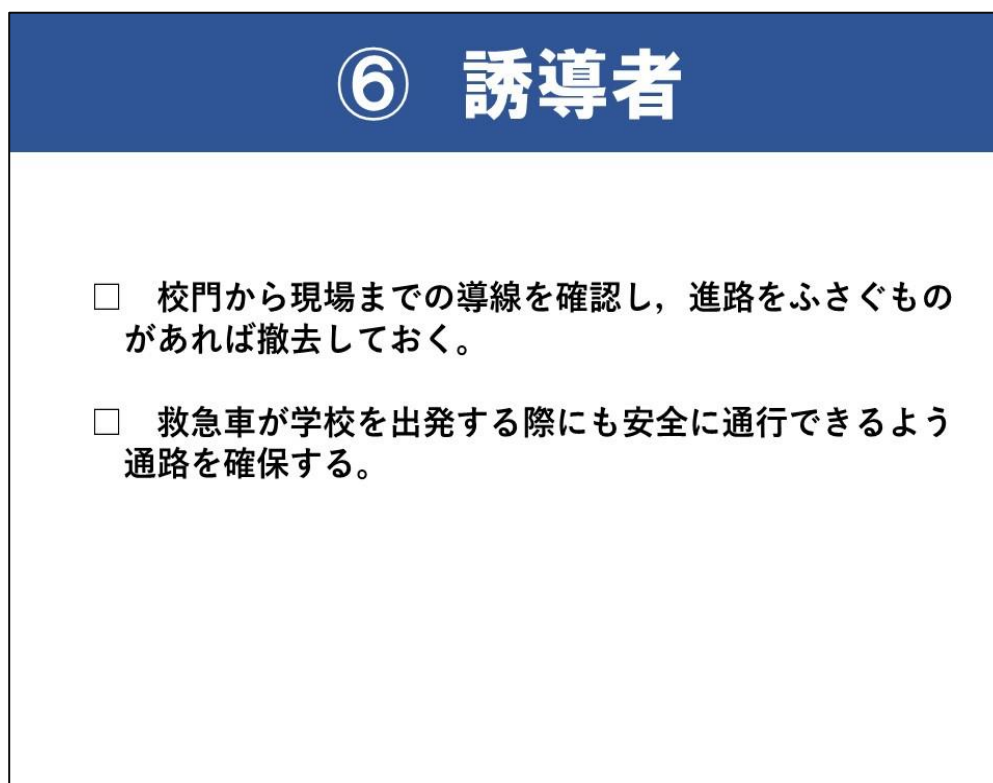
- ・重大事故が発生し応急手当てを行っていること、救急車を要請したことなどを正確に伝える。
- ・不確かな情報は伝えない。わかっていることのみ伝える。
- ・保護者へ冷静に伝えるため、「落ち着いてくださいね」という言葉をかける。

⑥ 誘導者

(オモテ面)



(ウラ面)



★ポイント 救急隊の進入経路を確保する。

- ・校門前で、救急車を誘導する。
- ・進入経路に、障害物があれば撤去し、現場に誘導する。

⑦ 他の児童生徒の管理

(オモテ面)

⑦ 他の児童生徒の管理

安全な場所に移動させる！



The illustration shows a male teacher in a blue suit pointing towards a circular inset map that displays a school building. He is surrounded by several children, some sitting on the floor and others standing, who appear to be listening attentively.

(ウラをみて確認)

(ウラ面)

⑦ 他の児童生徒の管理

- 事故現場やけがを見せないように移動する。
- 移動した場所で待機させる。
- 伝えられる範囲で正確な情報を知らせる。
- 気分不快を訴える児童生徒がいれば、不安や恐怖を受容したり、救急隊が対応していることを伝えて安心させたりなどし、その後リーダーに報告する。

移動場所、移動時刻をリーダーに報告する

★ポイント 他の児童生徒の安全を確保する。

- ・動揺、混乱を避けるため、現場を見せないようにする。
- ・児童生徒に正確な情報を伝えられる範囲で伝え安心させる。

「救命アクションカード」を活用した緊急時の教職員対応訓練モデル

1 目的

生命に関わる事故や傷病などの緊急時において、役割分担票(救命アクションカード)を活用した訓練を実施し、教職員全体で組織的に迅速な対応ができるようにする。

2 研修内容

(1) 対応訓練モデル

実技訓練・・・実技に事故発生を想定した一連の動きを取り入れたモデル
(1時間程度)

※夏休み中までに一度は必ず行う。

図上訓練①・・・実技部分を「事故発生～役割分担直前」までの動きを想定する図上訓練に置き換えたモデル(30分程度)

図上訓練②・・・実技部分を校舎配置図と教職員の配置から想定する図上訓練に置き換えたモデル(30分程度)

(2) 説明内容(共通)

- ① 体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKAモデル～PR映像の視聴
- ② 「学校対応事故に関する指針」より、研修ポイントの確認
 - ・ 優先すべきことは被害児童生徒等の生命と健康であることを押さえる。
 - ・ 生命に関する緊急事案は、管理職への報告よりも救急処置を優先させ迅速に対応する。
 - ・ 管理職や養護教諭不在時には、自分がリーダーになることもある。
- ③ 救急処置グッズ(+AED)の確認と救命アクションカードの説明

(3) 想定場面(心肺停止)

～体育の授業中～

体育館でバスケットボールの試合中、一人の子供の胸にパスされたボールが当たり、そのまま倒れて意識がない。その場にいたのは授業者のみ。

職員室には職員が数名在室。管理職と養護教諭は校内に不在。

(心臓振盪・・・心室細動による致命的な不整脈。バスケ・野球・サッカーなど接触の多い球技に多い)

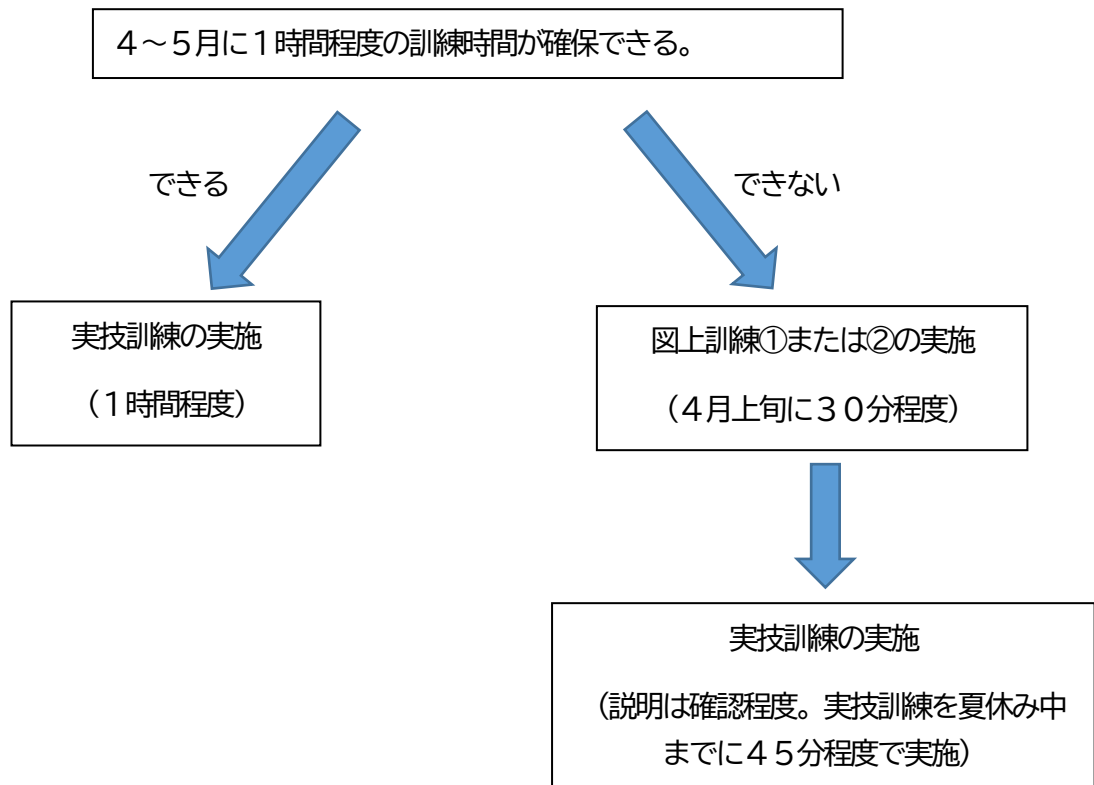
(4) 留意点

- ・ 事故発生から救急隊に引き継ぐまでの訓練を全職員で行い、対応方法や物品等を確認することで危機管理の意識やスキルを高める。
- ・ 傍観者としての意識に陥ってしまわないよう、訓練後は必ず振り返りを行い、「対応がよかった点」「対応に困った点」などを出し合い、効果や課題等を確認する。
- ・ 毎年、想定場面の工夫を行う。想定場所や事例を変更することで、マニュアルにとらわれず臨機応変な対応の重要性を認識できるようにする。なお、事例については、スポーツ振興センターのサイトから「学校管理下の災害」を参照のこと。

3 実施時期

緊急事案は時期を問わず発生するものと考え、年度始めから対応できるようにしておく必要があり、4～5月中に時間を確保し実技訓練で対応の流れを確認しておくことが理想的である。しかし、年度始めに時間を確保できない場合は、短時間で取り組むことができる図上訓練①、図上訓練②で緊急時の対応の流れを確認できるようにし、夏休み中までに実際の動きを取り入れた実技訓練を実施する。

4 実施モデルフロー



5 対応訓練モデル

(1) 実技訓練

研修時間	研修方法	研修内容等	留意点・ポイント等
15分	視聴 説明 (安全担当) (保健主事, 養護教諭)	1 体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKAモデル～PR映像の視聴	※視聴により児童生徒の生命を守る使命感と研修意欲を喚起させる。
		2 「学校事故対応に関する指針」より, 研修のポイントの説明	<ul style="list-style-type: none"> まずすべきことは被害児童生徒等の生命と健康であること 生命に関する緊急事案は, 管理職への報告よりも救命処置を優先させ迅速に対応する。 管理職や養護教諭不在時には, 自分がリーダーとなることもある。
		3 救急処置グッズ(+AED)の確認と救命アクションカードの説明 (1)救急処置グッズの中身を確認する。 …人工呼吸用携帯マスク, 救命アクションカード, タオル, 保温用シート, ゴム手袋, ペン等	<ul style="list-style-type: none"> 一刻を争う心肺停止と出血への対応のための準備である。
		(2)「救命アクションカード活用フロー」を使って, 以下のことを説明する。 ①第一発見者は, 児童生徒に「緊急です」カードを職員室に持って行かせ, 事故が発生していることを伝えるよう指示する。	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の児童生徒に対して, 落ち着いて座っているように指示する。 意識と呼吸の確認を行い, 「なし」「わからない」場合は心肺蘇生法を開始する。
		②「緊急です」カードを受け取った職員は, 事故が発生していることを職員室内に <u>大声で</u> 伝える。	<ul style="list-style-type: none"> 現場に持っていくもの(AED, 救急処置グッズ, 携帯電話)を声に出して確認して分担する。 職員室には一人を残して, 現場に駆け付ける。
		③心臓マッサージを交代し, 第一発見者は, リーダーに状況を説明する。	
④リーダーは, 一覧表で確認しながら「救急車要請」「記録」「手当て」「家庭連絡」「誘導	<ul style="list-style-type: none"> ※職員は指示待ちではなく, 自主的に係を担う。 指示内容が終了したらリーダーに報告する。 		

		<p>者」「他の生徒の管理」を指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーも各係の進捗について確認する。 ・「記録」は、リーダーに集まる情報を時刻と共に記録していく。 ・「他の児童生徒の管理」は、他の児童生徒を現場から離し、その時点で分かっていることを説明し、落ち着かせる。 ・人数が多い場合は各役割を複数人で担当し、人数が少ない場合は一人で複数の役割を担当する。
		<p>⑤救急車到着まで心臓マッサージを約2分（5セット）で交代しながら行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急隊に引き継いだところで終了する。
20分	演習1	<p>4 2グループに分かれて演習</p> <p>(1) 最初はAグループが演習、Bグループは児童生徒役で「児童生徒」バスケットボールのゲームを再現し、演習の様子を参観する。</p> <p>○被災児童生徒:心肺蘇生訓練用人形○第一発見者(授業者)</p> <p>○リーダー ○教職員: ~ 名 ○消防署 ○児童生徒</p> <p>【ステージを職員室に見立て、発見者以外は在室している。】</p>
	振り返り1	<p>演習1の振り返り</p> <p>・演習者と参観者それぞれの立場から意見を出してもらい、Bグループの演習の改善につなげる。</p>
	演習2	<p>(2) AグループとBグループが交代して演習</p> <p>・Aグループの気付きや反省をもとに、同様の場面設定で行う。</p>
	振り返り2	<p>演習2の振り返り</p> <p>・演習者と参観者それぞれの立場から改善点について意見を出し合う。</p>
		<p>5 全体の振り返り</p> <p>・気付いたことなどを全体で共有する。</p>
10分	講評 その他	<p>6 管理職から全体講評</p> <p>・感想や反省はアンケートに記入してもらう。</p>

(2) 図上訓練①

研修時間	研修方法	研修内容等						
15分	説明	1 実技訓練と同様						
10分	演習	<p>2 図上訓練①</p> <p>○事故発生から救命アクションカードを配付するまでの動きを3つの場面に分けて具体的な動きをイメージする。 ○転入職員とそれ以外に分かれて班を作る。</p> <p><方法> 事故発生からリーダーが救命アクションカードで役割分担するまでに必要な動きとその順番をイメージし付箋に書いていく。</p> <p>①「第一発見者」の行動 ②「緊急ですカード」を受け取ってからの行動 ③現場に到着してからの行動 ④解答例とそれぞれの班からでた+αの行動を紹介</p> <p>(ワークシート例)</p> <div data-bbox="470 1111 1350 1776" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; text-align: center; border: 1px solid gray; border-radius: 5px;">「第一発見者」の動き</td> <td style="width: 33%; text-align: center; border: 1px solid gray; border-radius: 5px;">「緊急です」カードを受け取ってからの動き</td> <td style="width: 33%; text-align: center; border: 1px solid gray; border-radius: 5px;">現場に到着してからの動き</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">① 意識と呼吸の確認</div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px;"></div> </td> <td style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">大きな声で伝える</div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px;"></div> </td> <td style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">リーダーは救命アクションカードの配布</div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">↓</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">カードを参考に役割を行動する</div> </td> </tr> </table> </div>	「第一発見者」の動き	「緊急です」カードを受け取ってからの動き	現場に到着してからの動き	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">① 意識と呼吸の確認</div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px;"></div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">大きな声で伝える</div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px;"></div>	<div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">リーダーは救命アクションカードの配布</div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">↓</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">カードを参考に役割を行動する</div>
「第一発見者」の動き	「緊急です」カードを受け取ってからの動き	現場に到着してからの動き						
<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">① 意識と呼吸の確認</div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px;"></div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">大きな声で伝える</div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px;"></div>	<div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; width: 60px; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">リーダーは救命アクションカードの配布</div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">↓</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">カードを参考に役割を行動する</div>						
5分	講評 その他	<p>3 管理職から全体講評</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回は夏休み前に実際の動きを入れて、一連の流れを確認することを伝える。 ・感想や反省はアンケートに記入してもらう。 						

(3) 図上訓練②

研修時間	研修方法	研修内容等 ★ポイント
15分	説明	1 実技訓練と同様
10分	演習	<p>2 図上訓練②</p> <p>○想定・校舎配置図をもとに救命アクションカードに沿って、グループごと図上訓練を行う。</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一発見者を決める。 ・AEDと救急処置グッズなどの設置場所を確認する。 ・事故発生時は、職員室に数名、他は自分の教室にいる想定し、人員の駒を校舎配置図面に置く。
		<p>★進行役が随時、状況付与を行う。状況を確認後、対応していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①第一発見者の行動。 ②「緊急ですカード」が職員室に届く。 ③現場に駆けつけ、第一発見者から状況を聴く。 ④現場に駆けつけた職員の中から、リーダーを決める。 ⑤リーダーは、駆けつけた職員に役割を割り振る。 (自分から役割を取りに行くのも可！「救急車電話します！」など) ⑥救命行動を一つずつシミュレーションする。 一つが終了したら、次の救命行動を行う。 ※記録係ははじめから実際の時刻をもとに記入していく。 ※役割ごと進捗状況をリーダーに随時報告する。 ⑦救急隊が到着したところで終了。
5分	振り返り	<p>3 振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを中心に気付いたことなどを書き出し、振り返りを行う。 ・特に、全体として共有したいことを発表する。
5分	講評 その他	<p>4 管理職から全体講評</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回は夏休みに実際の動きを入れ、一連の流れを確認することを伝える。 ・感想や反省はアンケートを作成し、記入してもらう。

※救命アクションカード活用フロー（イメージ図）

事故現場

第一発見者

- 1. 状況を把握する**
 - 応答の有無を確認
 - 呼びかけに反応しない→高喊なし
- 2. 大声で人を集める**
 - 「救命カード」手近くにいる人に渡し、群衆中に広げる。
 - 周囲の児童生徒に静かに促すように指示する。
- 3. 呼吸を確認する**
 - 胸や腹が膨らんでいる → 呼吸あり
 - 胸や腹が膨らんでいない
 - 「しゃくりあげるような不規則な呼吸」 → 呼吸なし

呼吸なしなら
ただちに心臓マッサージと人工呼吸を開始
 胸の真ん中を「5回強く叩く」力で
 「100～120回/分」のテンポで、「絶え間なく」行う。
 心臓マッサージ・人工呼吸 = 30:2

状況把握 手当て



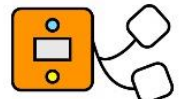
救命アクションカードと対応訓練モデルの内容は、訓練等の基本形ですので、学校の実態に応じて自校化してご活用ください。

応援者

「緊急です！」

()にすぐ来てください！

(ウラをみて確認)



① リーダー

- 1 リーダーであることを宣言する！
- 2 救命アクションカードを配付する！



(ウラをみて確認)

② 救急車要請

現場で119番通報する！



(ウラをみて通報)

③ 記録

リーダーの脳で情報を記録する！

- 事故発生状況について、家庭連絡係と共有する。
- 「誰が、何時に、何をしたか」を細かく記録する。



(ウラをみて確認)

④ 手当て

必要な手当てを複数で行う！

- 心臓マッサージと人工呼吸は「30:2」で1セット。子どもの救命には、人工呼吸が必須
- 2分間（5セット）を交代の目安にする。



(ウラをみて確認)

⑤ 家庭連絡

保護者に連絡する！

- 事故発生状況について記録係と共有し、確認する。
- 分かっていることのみを正確に伝える。



(ウラをみて電話)

⑥ 誘導者

校門前へ誘導に向かう！
救急隊員を現場へ誘導する！



(ウラをみて確認)

⑦ 他の児童生徒の管理

安全な場所に移動させる！



(ウラをみて確認)